

目標に沿った支援

～ 個別支援計画を作成する手順 ～



R5.9.13

AELL

右のQRコードから
左のページの表示を
お願いします。



合同会社サンクスシェア
代表社員・相談支援専門員 田中 さとる



支援計画を立てる手順

① 障がい児支援利用計画を参照する

- ・ 相談支援専門員が作成したプランに沿った作成が必要

② 初回面接する

- ・ インテークシートによる利用の背景、利用の必要性等の聞き取り

③ 支援計画原案検討会議で協議する（モニタリング時、もしくは更新時）

- ・ 課題の分析
- ・ 支援の具体的内容と支援の方法の吟味

④ 文章化する

- ・ 読む人に伝わる文章記述

⑤ 支援の記録

- ・ 全体的な行動等の記録 + 子ども別・課題別の記録 の組み合わせ

⑥ アセスメントによるモニタリングと支援計画の改善

支援計画をみる

『まずは、ガイドライン』



(2) 放課後等デイサービスの基本的役割

○子どもの最善の利益の保障

放課後等デイサービスは、児童福祉法第6条の2の2第4項の規定に基づき、学校（幼稚園及び大学を除く。以下同じ。）に就学している障害児に、授業の終了後又は休業日に、生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を供与することとされている。

放課後等デイサービスは、支援を必要とする障害のある子どもに対して、学校や家庭とは異なる時間、空間、人、体験等を通じて、個々の子どもの状況に応じた発達支援を行うことにより、子どもの最善の利益の保障と健全な育成を図るものである。

① 基本的姿勢

放課後等デイサービスの提供に際しては、子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した支援を行うために、子どもの支援に相応しい職業倫理を基盤として職務に当たらなければならない。

放課後等デイサービスの対象は、心身の変化の大きい小学校や特別支援学校の小学部から高等学校等までの子どもであるため、この時期の子どもの発達過程や特性、適応行動の状況¹を理解した上で、コミュニケーション面で特に配慮が必要な課題等も理解し、一人ひとりの状態に即した放課後等デイサービス計画（＝個別支援計画）²に沿って発達支援を行う。

放課後等デイサービスでは、子どもの発達過程や障害種別、障害特性を理解している者による発達支援を通じて、**子どもが他者との信頼関係の形成**を経験できることが必要であり、この経験を起点として、**友達とともに過ごすことの心地よさや楽しさを味わう**ことで、**人と関わることへの関心**が育ち、**コミュニケーションをとることの楽しさ**を感じることができるよう支援する。また、**友達と関わることにより、葛藤を調整する力や、主張する力、折り合いをつける力**が育つことを期待して支援する。基本活動には、子どもの自己選択や自己決定を促し、それを支援するプロセスを組み込むことが求められる。

**適応行動とは、
年齢相応の周囲の
期待の範囲内の行
動（社会的な活動
への参加、コミュ
ニケーション、運
動など）のこと**

支援計画を立てる手順 ①

【障害児支援利用計画を参照する】



「相談員さん、障害児支援利用計画いただけますか？」

手順①：利用計画の参照

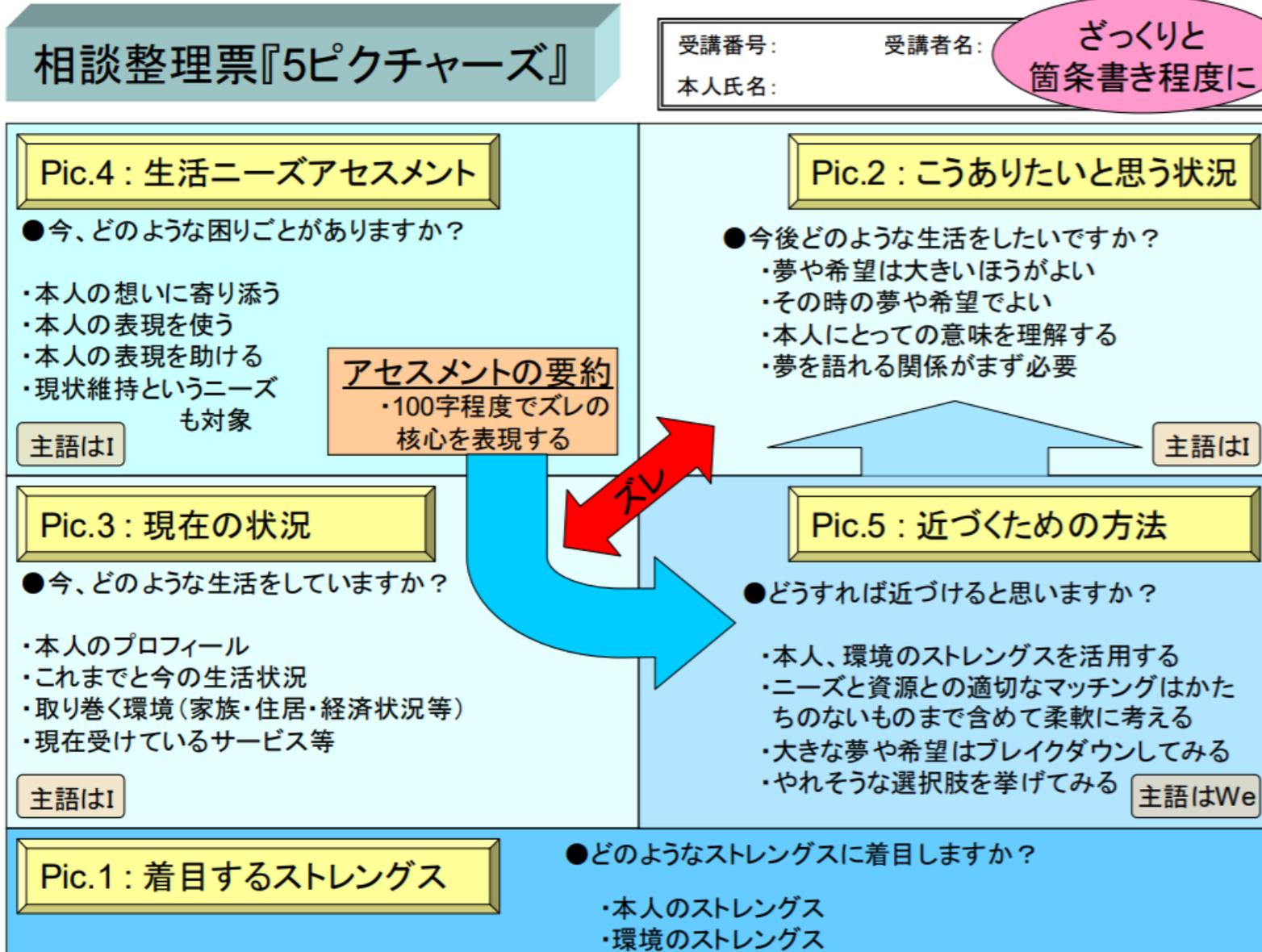
サービス等利用計画・障害児支援利用計画

利用者氏名(児童氏名)	〇〇 〇〇	障害程度区分	無	相談支援事業者名	指定特定相談支援事業所 〇〇			
保護者氏名	〇〇 〇〇	本人との続柄	母					
障害福祉サービス受給者証番号		利用者負担上限額	〇〇円	計画作成担当者	〇〇 〇〇			
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号						
計画作成日	平成〇年〇月〇日	モニタリング期間(開始年月)	〇ヶ月	利用者同意署名欄				
利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活)	<ul style="list-style-type: none"> 学校への登校や、放課後デイのお迎え時など、マイペースさもあって時間を守ることが難しいです。 状態が良いときは良いのですが、バランスが崩れると歯止めがきかず悪さすることがあります。 日常生活動作を含め、引き続き自分の気持ちを伝えたり、できることが増えてほしいです。 今は〇〇療育機関の個人セッションを受けているので、必要な時に一緒に行きたくてほしいです。 							
総合的な援助の方針	二次障害につながらないよう、本人の意図をくみ取りながら、信頼感あるコミュニケーションの相互的な情緒交流が出来るよう、福祉サービスによって療育を受けながら、自信をもって生活出来るよう支援します。そのための関係機関との連携や、統一した療育が受けられるよう支援します。							
長期目標	バランスが崩れた時に自分で整える方法を身に付け、実践しながら穏やかに過ごせるようになりましょう。							
短期目標	認知面での捉え方に幅を利かせ、コミュニケーションにおけるトラブルを少なくしましょう。							
優先順位	解決すべき課題(本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等		課題解決のための本人の役割	評価時期	その他留意事項
				種類・内容・量(頻度・時間)	提供事業者名(担当者名・電話)			
1	皆との関わり(相互のやり取り)を持ってほしい。その中で、自分の気持ちを伝えられるようになってほしいです。	信頼できる大人の見守りの中、安心できるやりとりを通して、自己表現をしたり、相手の意図を正しく理解し、主体的な行動が出来るよう支援します。	6ヶ月	①放課後等デイサービス 頻度:23.0日/月 曜日:月～土曜 ・A放課後等デイサービス 曜日:火、水、木、金曜 ・B放課後等デイサービス 曜日:金曜(心理面談) ・C放課後等デイサービス 曜日:月曜 ・D放課後等デイサービス 曜日:土曜 ※長期休暇中においては、利用目的に合わせて曜日や日数を変更し申し込みをします。		思いが伝わりあう体験をたくさん経験しましょう。またその方法をたくさん学びましょう。	6ヶ月	○語彙数は年齢相応にありますが、言葉を一時的に保持する力や、注意を向け続ける集中力の難しさから、本来行うことからずれることがあるようです。一つひとつ丁寧に言い、達成感を味わうことで、理解と自信につなげましょう。
2	出来ることをなるべく早く出来るようになってほしい。(日常生活動作) <u>時間を守る</u> 、 <u>見通しを持つ</u>	本人の理解につながるような支援を行い、できることを増やします。また、周りをみて行動することを意識できるよう支援します。	6ヶ月			楽しく分かりやすく活動できるよう工夫しますね。	6ヶ月	○宿題:音読はご家庭で、それ以外については放課後デイで行い、どうしても分からない部分はご家庭や学校に持ち帰るよう統一します。 ○体温調節が難しいようです。水分補給は各関係機関しっかり確認して取り組んでいきましょう。
3	状態が良いときは良いのですが、バランスが崩れると歯止めがきかず悪さすることがあります。	本人の言動の要因をしっかりアセスメントしながら、現象だけにとらわれず、良い悪しも含め気持ちの理解に努めます。	6ヶ月	②〇〇小学校(特別支援学級) ③計画相談事業所 頻度:適宜 ④〇〇市役所		いまの状態に気づけるよう、先生方がお話をしますね。	6ヶ月	○周りを見て状況に合わせた行動が出来るよう支援しましょう。(年齢に合わせた行動も意識しましょう。) ※学校の行事等やご家庭の事情により、放課後等デイサービスでは、営業時間前後の延長利用をします。その都度事業所と受け入れについて検討します。
4	福祉サービスや医療教育との連携を図ったり、情報提供等を行います	安心して本児の発達が促せるよう、各機関と連携しながら支援をしていきます。	1年	⑤〇〇療育園(医療) ⑥〇〇療育機関		不安なことや困ったところがあればいつでも相談して下さいね。【保護者様】お子様の成長を様々な支援機関と連携しながら行っていきましょう。	1年	※ひとりでの移動には外的要因から事故、怪我等が心配される為、送迎を利用します。

手順①：利用計画の参照

【相談支援のニーズ整理法】

【みるポイント】



- ① 現在の状況の把握
(アセスメント)
- ② 真のニーズの把握
- ③ ズレを埋める目標
設定の適切性
- ④ 支援方法の実効性
- ⑤ ストレングスの活用

手順①：利用計画の参照

【通所支援計画の見方】

平成〇年度 放課後等デイサービス〇〇 障害児通所支援計画書

ふりがな	性別	生年月日	所 属				
氏 名	男	平成〇年〇月〇日	〇〇市立〇〇小学校				
住 所	〒 〇〇市〇〇町1000-1		電 話				
			携 帯				
診 断	#1 自閉スペクトラム症 #2 注意欠如・多動症 #3 境界域知能	療育 手帳	なし	身体 手帳	なし	精神 手帳	なし
家族の状況	父(単身赴任)・母・姉(同居)						
関係機関	計画相談事業所〇〇(〇〇氏)・放課後等デイサービス△△						
主 訴	心のケアが欲しいです。人間関係を学んでほしいです。課外活動の様々な所に連れて行ってほしいです。						
総合的 支援目標	精神的な安定感を得ることで、幅広い人間関係を作れるよう支援します。 課外活動では、様々な体験を通して自信をつけ、情緒豊かに楽しめるよう支援します。						
長期目標	一人でも安心して主体的な行動ができるようになります。						
短期目標	大人との信頼関係を築きながら、安心して活動に参加できるようになります。						
領 域	発達課題 (～が必要)	援助目標	支援の種類・内容・量等			評価 時期	
利用計画 2 発達支援	ワーキングメモリの低さがあり、言葉の保持が難しいようです。	理解できるように話すことや、必要に応じては視覚情報を用いながら、“わかった”を実感につなげます。	①コミュニケーション・サーキット 4つの課題を通して、人と協力する事(一緒に行なう)、タイミングを合わせる事、譲り合う事、からだへの意識を向けコントロールする事などを学びます。			6ヶ月	
利用計画 3 学習支援	不注意優勢があることで気が散ったりし、長く集中することが難しいようです。	宿題や事業所で用意した課題等、1対1で取り組みながら達成感を味わい、集中力を費います。	②SST・体幹トレーニング ・場面設定を行い、思いの共有や伝え合う練習等を通して自己・他者理解につなげます。 ・自身体感や体のコントロールを図ります。 ③余暇活動支援(遊び方の工夫) 自分一人や、相手と楽しく過ごせるよう、様々			6ヶ月	

利用計画 1 人間関係	一人に固執する様子が見られます。徐々に人との楽しい関わりを持てるようになると良いです。	信頼関係を築いた大人から、徐々に子ども達に目を向けられるよう支援します。	な遊びを通して支援します。他に、施設外の課外活動等を行い、様々な体験を積みながら成功体験を増やし、自己肯定感を高めます。	6ヶ月
経験・体験	様々な経験を通じて成功体験を積み、自信につなげていくと良いです。	公園、施設、食事、見学など、様々な体験を通して達成感を得られるよう支援します。	④工作・調理活動 その季節に応じて適した工作物や調理をすることで、1年の意識や手指の巧緻性、集中力、段取りなどを養い、達成感を味わいます。 ⑤個別面談(心理療法各種) ストレス緩和やリラクゼーション方法、自己・他者理解等に努めます。	6ヶ月
移動支援	送迎を行う	安心して来所、帰宅が出来るよう送迎を行う	◆事業所送迎車で送迎 本児の安全と健康管理に努めます。	6ヶ月
利用計画 4 家族支援	本児の状態把握・理解。	本児の長所・短所を含め 困り感を共有します。	学校や保護者等と、本児の適切な理解と問題意識の一致のために情報共有を行います。(本児の了解が得られたものを優先します)	1年

作成日:平成〇年〇月〇日
 作成者:児童発達管理責任者: 〇〇 〇〇 印 児童保護者: _____ 印



手順①：利用計画の参照

【相談支援のニーズ整理法】

平成〇年度 放課後等デイサービス〇〇 障害児通所支援計画書

ふりがな	性別	生年月日	所 属				
氏 名	男	平成〇年〇月〇日	〇〇市立〇〇小学校				
住 所	〒		電 話				
	〇〇市〇〇町1000-1		携 帯				
診 断	#1 自閉スペクトラム症 #2 注意欠如・多動症 #3 境界域知能	療育 手帳	なし	身体 手帳	なし	精神 手帳	なし
家族の状況	父(単身赴任)・母・姉(同居)						
関係機関	計画相談事業所〇〇(〇〇氏)・放課後等デイサービス△△						
主 訴	心のケアが欲しいです。人間関係を学んでほしいです。課外活動の様々な所に連れて行ってほしいです。						
総合的 支援目標	精神的な安定感を得ることで、幅広い人間関係を作れるよう支援します。 課外活動では、様々な体験を通して自信をつけ、情緒豊かに楽しめるよう支援します。						
長期目標	一人でも安心して主体的な行動ができるようになります。						
短期目標	大人との信頼関係を築きながら、安心して活動に参加できるようになります。						
領 域	発達課題 (～が必要)	援助目標	支援の種類・内容・量等			評価 時期	
発達支援	ワーキングメモリの低さがあり、言葉の保持が難しいようです。	理解できるように話すことや、必要に応じては視覚情報を用いながら、“わかった”を実感につなげます。	①コミュニケーション・サーキット 4つの課題を通して、人と協力する事（一緒に行なう）、タイミングを合わせる事、譲り合う事、からだへの意識を向けコントロールする事などを学びます。			6ヶ月	
学習支援	不注意優勢があることで気が散ったりし、長く集中することが難しいようです。	宿題や事業所で用意した課題等、1対1で取り組みながら達成感を味わい、集中力を費います。	②SST・体幹トレーニング ・場面設定を行い、思いの共有や伝え合う練習等を通して自己・他者理解につなげます。 ・自身体感や体のコントロールを図ります。 ③余暇活動支援(遊び方の工夫) 自分一人や、相手と楽しく過ごせるよう、様々			6ヶ月	

人間関係	一人に固執する様子が見られます。徐々に人との楽しい関わりを持てるようになると良いです。	信頼関係を築いた大人から、徐々に子ども達に目を向けられるよう支援します。	な遊びを通して支援します。他に、施設外の課外活動等を行い、様々な体験を積みながら成功体験を増やし、自己肯定感を高めます。	6ヶ月
経験・体験	様々な経験を通じて成功体験を積み、自信につなげていくと良いです。	公園、施設、食事、見学など、様々な体験を通して達成感を得られるよう支援します。	④工作・調理活動 その季節に応じて適した工作物や調理をすることで、1年の意識や手指の巧緻性、集中力、段取りなどを養い、達成感を味わいます。 ⑤個別面談(心理療法各種) ストレス緩和やリラクゼーション方法、自己・他者理解等に努めます。	6ヶ月
移動支援	送迎を行う	安心して来所、帰宅が出来るよう送迎を行う	◆事業所送迎車で送迎 本児の安全と健康管理に努めます。	6ヶ月
家族支援	本児の状態把握・理解。	本児の長所・短所を含め困り感を共有します。	学校や保護者等と、本児の適切な理解と問題意識の一致のために情報共有を行います。(本児の了解が得られたものを優先します)	1年

作成日:平成〇年〇月〇日

作成者:児童発達管理責任者: 〇〇 〇〇 印

児童保護者: _____ 印

支援計画を立てる手順 ②

【インタビューによる基本情報の収集】



『何に困っているのでしょうか？』 ⇒ 困り感の明確化

- 1 なぜ、放課後等デイサービスを利用しようと思ったのか？（保護者・本人）
- 2 何が本人、もしくは家族の問題・課題なのか？（表のニーズから真のニーズを導き出す）
- 3 問題・課題の具体的な経過説明（いつから？ どこで？ どんな状況？ 期間？ 程度は？など）
- 4 問題・課題理解に必要な関係機関（学校・医療・併用事業所・地域資源など）の情報
- 5 本人・家族は、その問題・課題をどのように感じ、考えているのか？
- 6 問題・課題は、本人や家族が日常生活を営むのにどれほどの支障を生んでいるのか？
- 7 問題・課題は、どのような発達段階で起きていることなのか？（課題の要因分析・ストーリー化）
- 8 本人の成育歴（成長過程で起こったできごとやエピソード、家族や身近な人との関係性）
- 9 本人のもつ特技、よさ、長所、強みはなにか？
- 10 本人の性格傾向、価値観は何か？など
- 11 その問題の解決に際し、どのような働きかけがなされてきたか？または、その予定は？
- 12 問題・課題に影響を及ぼしているキーパーソンはだれか？（よくも悪くも）
- 13 この問題・課題について、影響を及ぼしている人以外の環境や仕組み、決まりなどがあるか？
- 14 この問題・課題を解決するにあたって、利用・活用できる人的・物的・社会資源は何か？
- 15 本人のどのようなニーズが満たされれば、問題が解決に向かうのか？

【チャレンジ】 社会資源マップ（エコマップ）の作成

※ 目の付け所は、ものやひと、環境そのものに加えて、それらの関係性がどうであるか？

- ・ 基本情報（氏名 所属 生年月日など）
- ・ 家族構成（家族の仕事や生活状況 経済状況など）
- ・ ニーズ（本人 家族）
- ・ 関係機関（学校 病院 他の利用事業所 地域の社会資源など）
- ・ 生活歴・障がい歴（障がいの認定 療育相談の経緯など）
- ・ 現在の状況（日常生活 行動の特性や問題 コミュニケーション
健康面 社会生活能力 興味関心・強み 医療情報
他の関係機関の情報など）

手順②：インテーク面談

【アセスメント書式例】

一次アセスメント票(児童)									
受付番号					訪問者氏名	相談支援専門員			
訪問日	令和	年	月	日	曜日	対応者氏名	続柄		
訪問目的									
ふりがな				性別	生年月日		令和 年 月 日 歳		
氏名									
住所	〒								
連絡先	自宅 092 -				携帯				
	FAX 092 -				メール				
家族状況	続柄	氏名	年齢	職業・学校	同居/別居		特記事項		
					<input type="checkbox"/> 同居	<input type="checkbox"/> 別居			
					<input type="checkbox"/> 同居	<input type="checkbox"/> 別居			
					<input type="checkbox"/> 同居	<input type="checkbox"/> 別居			
					<input type="checkbox"/> 同居	<input type="checkbox"/> 別居			
シエングラム					主支援者 → 主	居住環境	<input type="checkbox"/> 自宅(単身)		
					副支援者 → 副		<input type="checkbox"/> 自宅(家族と同居)		
				本人 → <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> GH・CH				
				男性 → <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 病院				
				女性 → <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 施設				
				死亡者 → <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> その他				
生									

【重要な1ページ】

生活歴をしっかりとインテークすることにより、なぜ、放課後等デイサービスを利用する必要があるのかを明確に分析する。

支援計画を立てる手順 ③

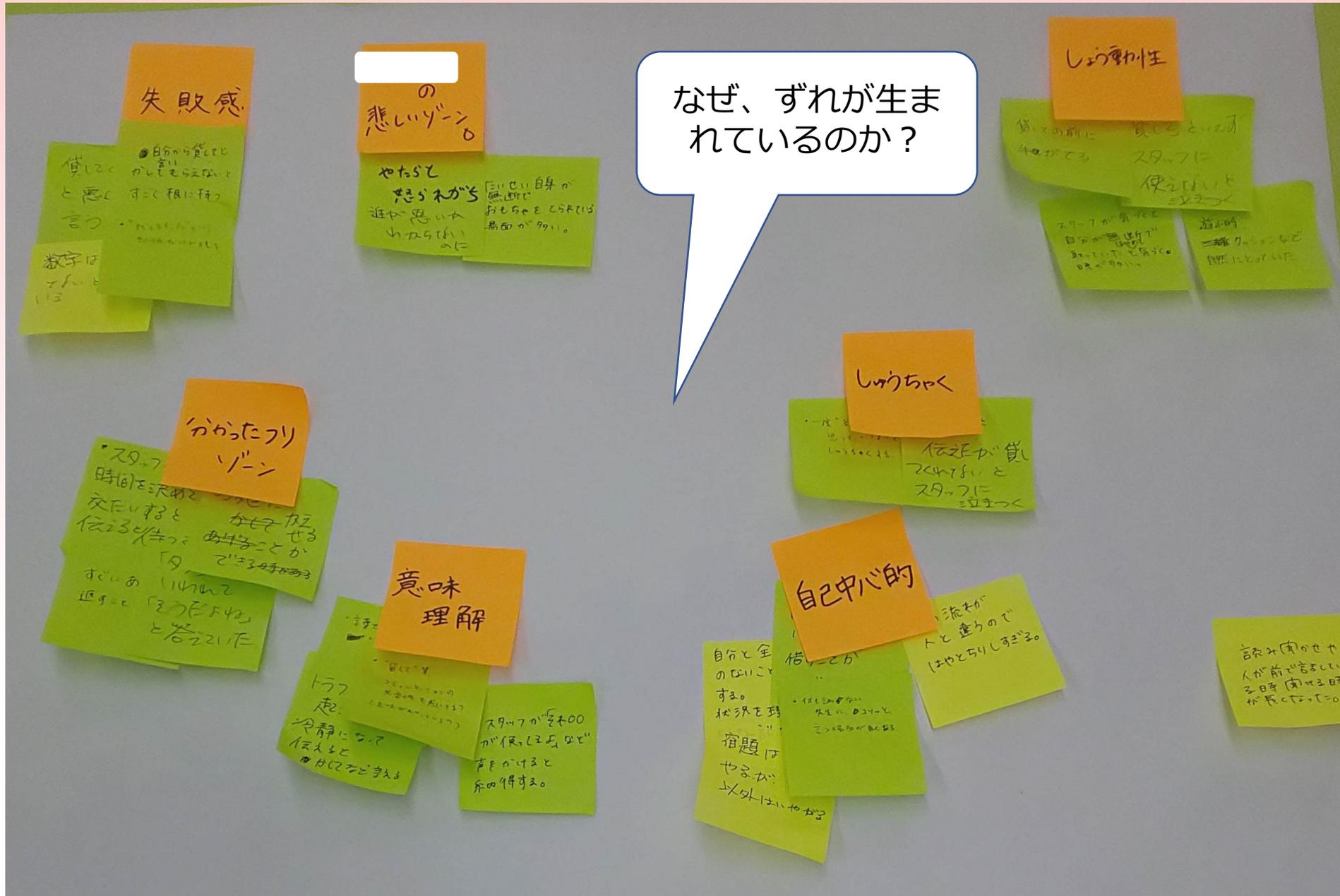
【原案検討会議による課題分析】



『支援計画は、共通理解されていますか？』

手順③：課題分析

【原案検討会議：KJ法による課題分析】



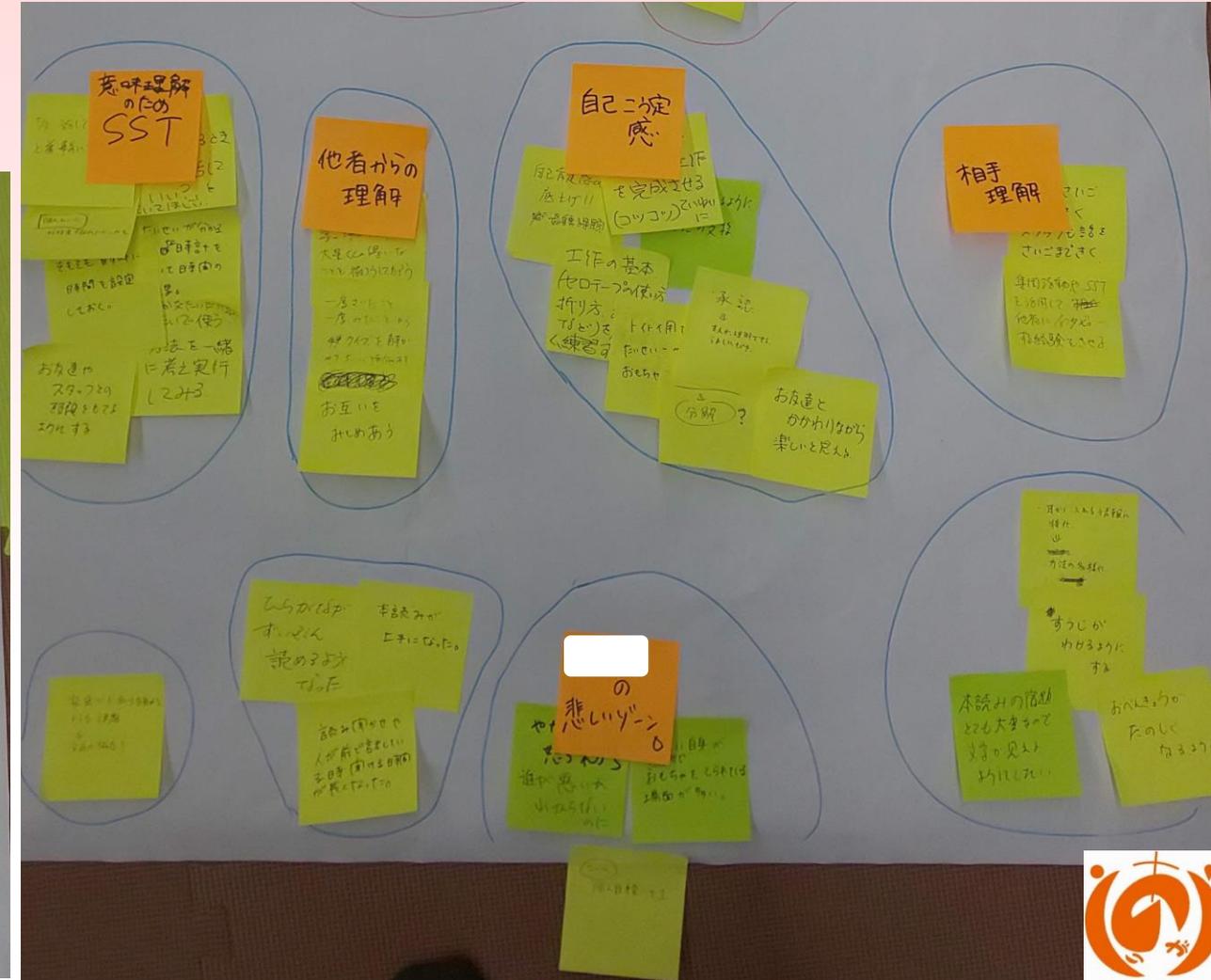
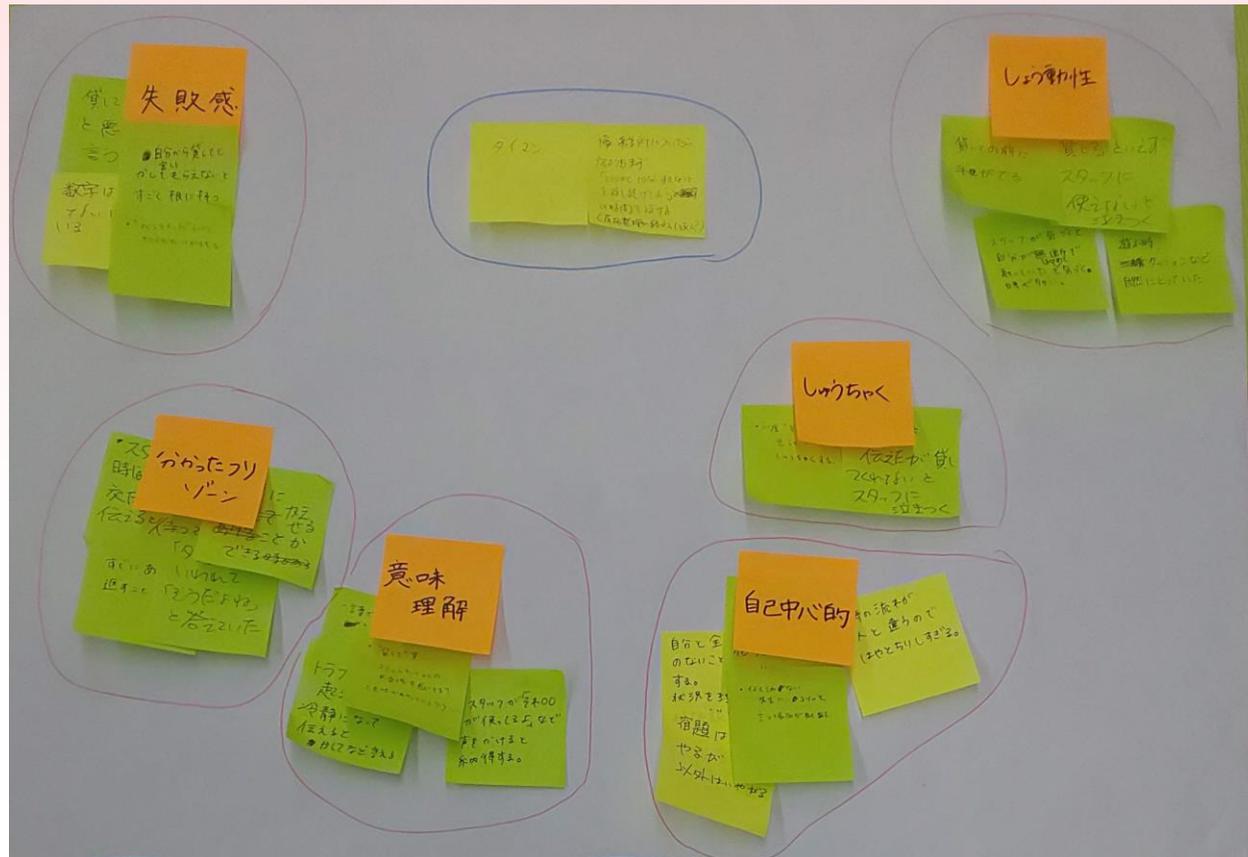
手順③：課題分析

【原案検討会議：KJ法による課題分析】

【前半】 KJ法による課題整理

- ①付箋の内容をカテゴリ分類する
- ②カテゴリのストーリー化
(階層を掘り下げて要因分析)

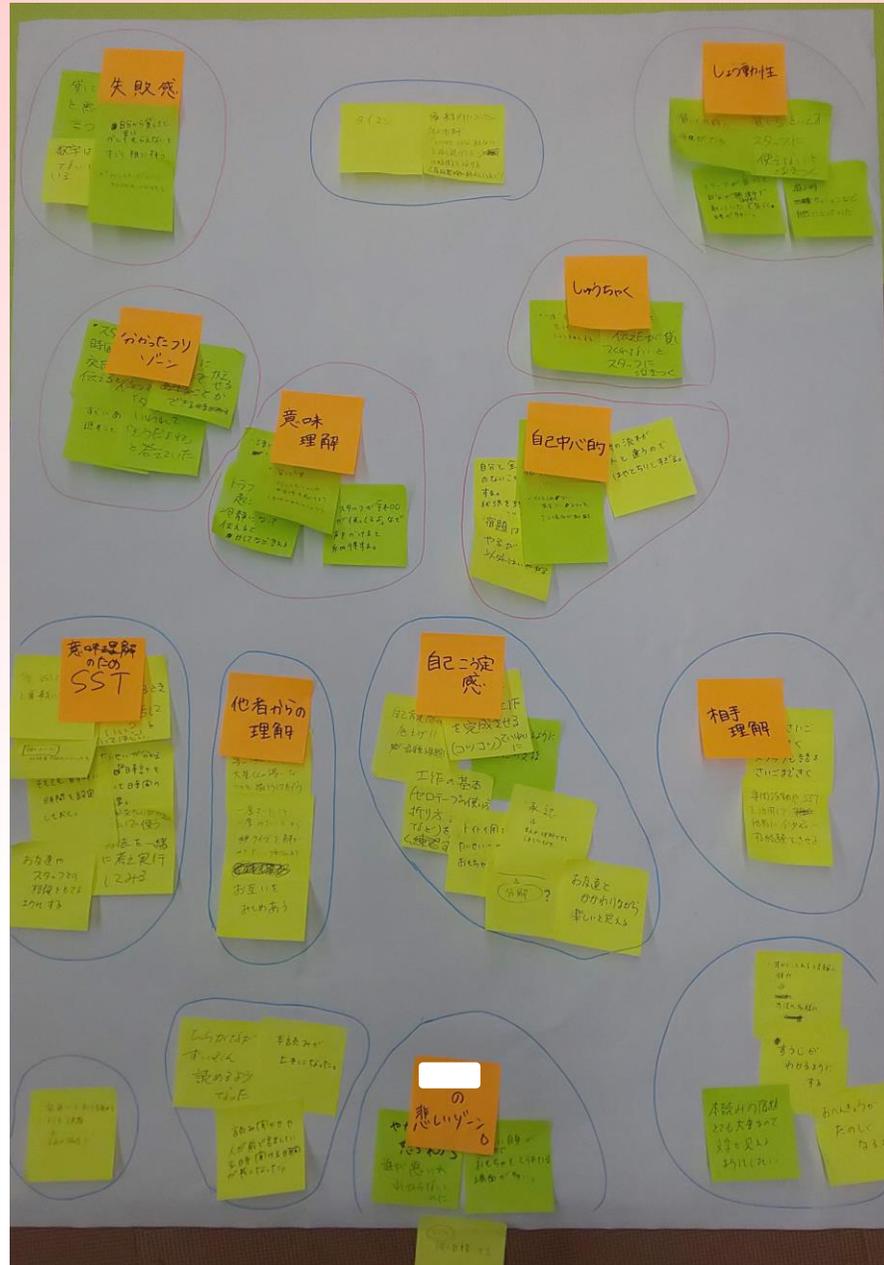
【後半】 KJ法による支援内容整理 支援内容カテゴリの重点化



手順③：課題分析

【原案検討会議：KJ法による課題分析】

KJ法による個別支援計画立案の手順



- 1 付箋に課題を書き出す
- 2 カテゴリ分類する
- 3 階層を掘り下げ根本要因分析
- 4 課題解決の柱をしぼる
(発達課題からストーリー化)
※必要に応じて再アセスメント
- 4 付箋に支援内容を書き出す
- 5 カテゴリ分類する
- 6 文章化する

発達の特長（厚生労働省）

1 乳幼児期

2 学童期

小学校低学年・中学年・高学年

3 青年前期

中学校

4 青年中期

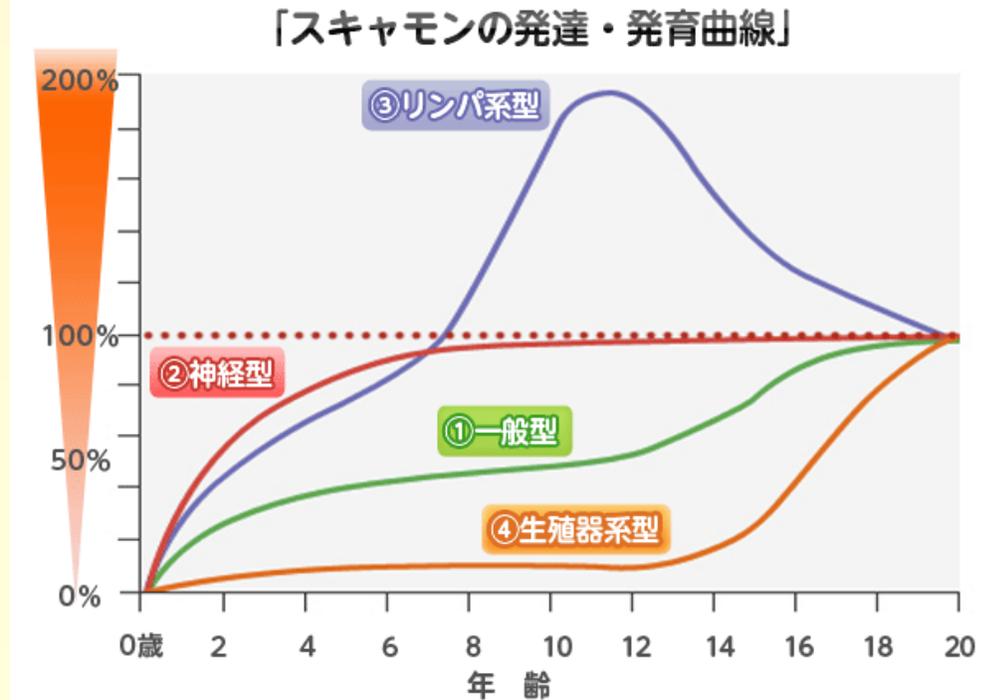
高等学校

① 発達的特質の理解

【身体障害の種別】

- 身体的発達
- 知的発達
- 社会性の発達
- 自我の発達
- 基本的欲求の発達

- 視覚障害
- 聴覚障害
- 音声機能、言語機能又はそしゃく機能の障害
- 肢体不自由
- 心臓、じん臓又は呼吸器の機能の障害



① 発達的特質の理解

- ・ 身体的発達
- ・ **知的発達**
- ・ 社会性の発達
- ・ 自我の発達
- ・ 基本的欲求の発達

- ・ 言語理解
- ・ 知覚推理
- ・ ワーキングメモリ
- ・ 処理速度

- ・ 結晶性領域
- ・ 流動性領域
- ・ 記憶領域
- ・ 論理推理

WISC-IV

田中ビナーV

① 発達的特質の理解

- 身体的発達
- 知的発達
- **社会性の発達**
- 自我の発達
- 基本的欲求の発達

- コミュニケーション
- 日常生活スキル
- 社会性
- 運動スキル
- 不適応行動

Vineland-II

- 身辺自立
- 移動
- 作業
- コミュニケーション
- 集団参加
- 自己統制

S-M社会生活

① 発達的特質の理解

- 身体的発達
- 知的発達
- 社会性の発達
- **自我の発達**
- 基本的欲求の発達

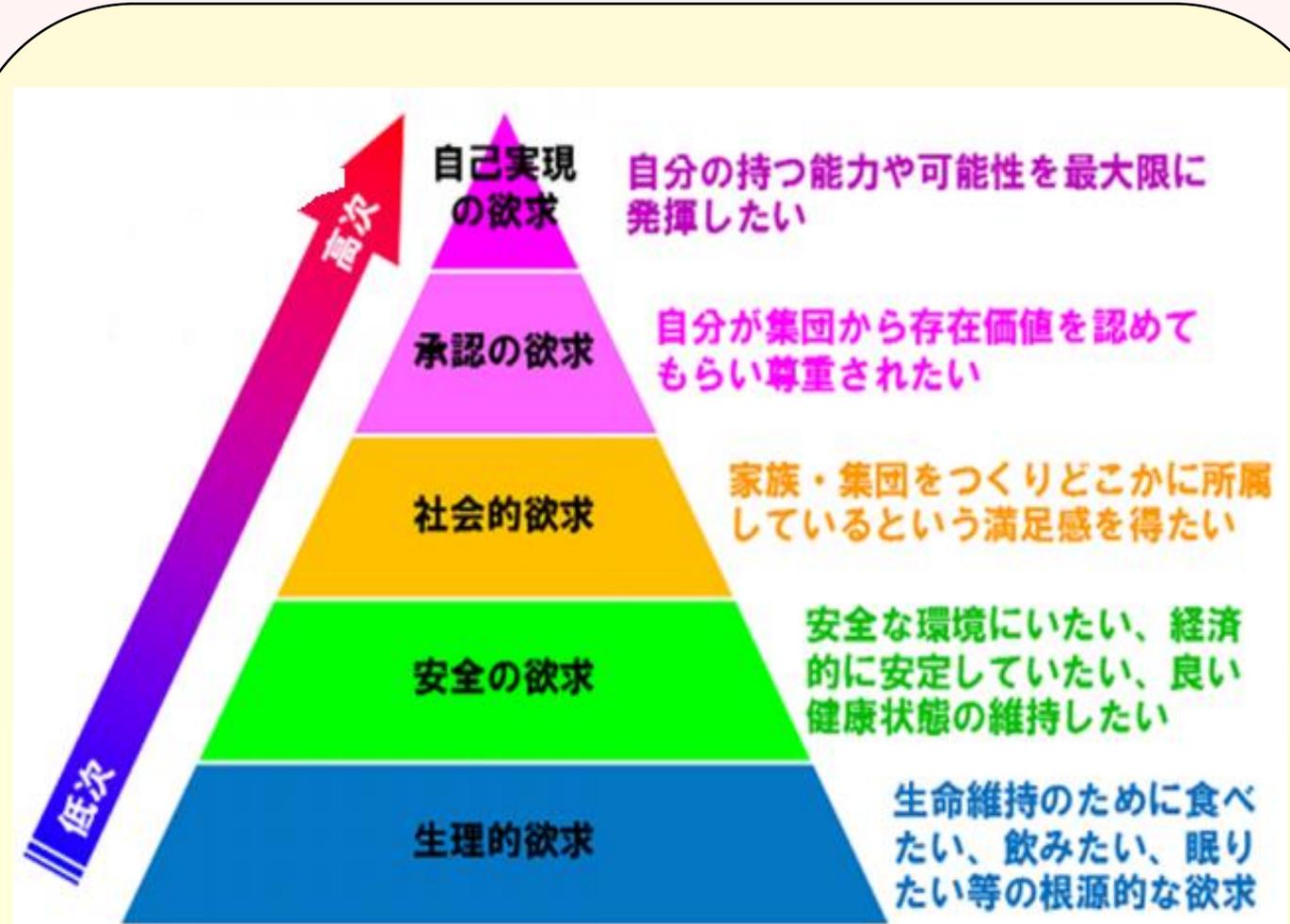
エリクソンの発達段階



① 発達的特質の理解

- 身体的発達
- 知的発達
- 社会性の発達
- 自我の発達
- **基本的欲求の発達**

マズローの欲求5段階説



手順③：課題分析

健康・生活	健康状態の把握 健康の増進 リハビリテーションの実施 基本的な生活スキルの獲得 構造化等により生活環境を整える
運動・感覚	姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 身体の移動能力の向上 保有する感覚の活用 感覚の補助及び代行手段の活用 感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応
認知・行動	感覚や認知の活用 知覚から行動への認知過程の発達 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 数量、大小、色等の習得 認知の偏りへの対応 行動障害への予防及び対応
言語・コミュニケーション	言語の形成と活用 受容言語と表出言語の支援 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 指さし、身振り、サイン等の活用 読み書き能力の向上のための支援 コミュニケーション機器の活用 手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用
人間関係・社会性	アタッチメント（愛着行動）の形成 模倣行動の支援 感覚運動遊びから象徴遊びへの支援 一人遊びから共同遊びへの支援 自己の理解とコントロールのための支援 集団への参加への支援

支援計画を立てる手順 ④

【支援計画の文章化】



『最も重要なポイントは、アセスメント（=評価）』

手順④：文章化

- ① **目的：本人の望ましい成長を意図的・計画的に支援するため**
- ② **内容**
 - ・ **本人や家族のニーズを踏まえているか？**
 - ・ **実現可能な目標か？**
 - ・ **本人が達成すべき発達課題を正しくとらえているか？**
- ③ **方法**
 - ・ **事業所で支援可能な方法か？**
(適切な次元・範囲か？ 具体性があるか？)
 - ・ **本人が達成すべき発達課題への取り組みの時期が適切か？**
- ④ **評価**
 - ・ **できたか、できなかったか、の判定が可能か？**
(行動目標としての記述が必要)

手順④：文章化

【文章化の視点】

平成〇年度 放課後等デイサービス〇〇 障害児通所支援計画書

ふりがな	性別		生年月日		所属		
氏名	男		平成〇年〇月〇日		〇〇市立〇〇小学校		
住所	〒			電話			
	〇〇市〇〇町1000-1			携帯			
診断	#1 自閉スペクトラム症 #2 注意欠如・多動症 #3 境界域知能	療育手帳	なし	身体手帳	なし	精神手帳	なし
家族の状況	父(単身赴任)・母・姉(同居)						
関係機関	計画相談事業所〇〇(〇〇氏)・放課後等デイサービス△△						
主訴	心のケアが欲しいです。人間関係を学んでほしいです。課外活動の様々な所に連れて行ってほしいです。						
総合的支援目標	精神的な安定感を得ることで、幅広い人間関係を作れるよう支援します。課外活動では、様々な体験を通して自信をつけ、情緒豊かに楽しめるよう支援します。						
長期目標	一人でも安心して主体的な行動ができるようになります。						
短期目標	大人との信頼関係を築きながら、安心して活動に参加できるようになります。						
領域	発達課題(～が必要)	援助目標	支援の種類・内容・量等				評価時期
発達支援	ワーキングメモリの低さがあり、言葉の保持が難しいようです。	理解できるように話すことや、必要に応じては視覚情報を用いながら、“わかった”を実感につなげます。	①コミュニケーション・サーキット 4つの課題を通して、人と協力する事(一緒に行なう)、タイミングを合わせる事、譲り合う事、からだへの意識を向けコントロールする事などを学びます。				6ヶ月
学習支援	不注意優勢があることで気が散ったりし、長く集中することが難しいようです。	宿題や事業所で用意した課題等、1対1で取り組みながら達成感を味わい、集中力を費やします。	②SST・体幹トレーニング ・場面設定を行い、思いの共有や伝え合う練習等を通して自己・他者理解につなげます。 ・自身体感や体のコントロールを図ります。 ③余暇活動支援(遊び方の工夫) 自分一人や、相手と楽しく過ごせるよう、様々				6ヶ月

人間関係	一人に固執する様子が見られます。徐々に人との楽しい関わりを持てるようになると良いです。	信頼関係を築いた大人から、徐々に子ども達に目を向けられるよう支援します。	な遊びを通して支援します。他に、施設外の課外活動等を行い、様々な体験を積みながら成功体験を増やし、自己肯定感を高めます。	6ヶ月
経験・体験	様々な経験を通して成功体験を積み、自信につなげていくと良いです。	公園、施設、食事、見学など、様々な体験を通して達成感を得られるよう支援します。	④工作・調理活動 その季節に応じて適した工作物や調理をすることで、1年の意識や手指の巧緻性、集中力、段取りなどを養い、達成感を味わいます。 ⑤個別面談(心理療法各種) ストレス緩和やリラクゼーション方法、自己・他者理解等に努めます。	6ヶ月
移動支援	送迎を行う	安心して来所、帰宅が出来るよう送迎を行う	◆事業所送迎車で送迎 本児の安全と健康管理に努めます。	6ヶ月
家族支援	本児の状態把握・理解。	本児の長所・短所を含め困り感を共有します。	学校や保護者等と、本児の適切な理解と問題意識の一致のために情報共有を行います。(本児の了解が得られたものを優先します)	1年

作成日:平成〇年〇月〇日

作成者:児童発達管理責任者: 〇〇 〇〇 印

児童保護者: _____ 印

手順④：文章化

- ① **目的：本人の望ましい成長を意図的・計画的に支援するため**
- ② **内容**
 - ・ 本人や家族のニーズを踏まえているか？
 - ・ 実現可能な目標か？
 - ・ 本人が達成すべき発達課題を正しくとらえているか？
- ③ **方法**
 - ・ 事業所で支援可能な方法か？
(適切な次元・範囲か？ 具体性があるか？)
 - ・ 本人が達成すべき発達課題への取り組みの時期が適切か？
- ④ **評価**
 - ・ できたか、できなかったか、の判定が可能か？
(行動目標としての記述が必要)

<目標設定におけるポイント>

- 「SMARTの原則」があります。

S(specific) 具体的であること

M(measurable) 計測可能であること

A(achievable) 十分にチャレンジング（挑戦的）であると同時に、
達成が不可能でない水準であること

R(relevant) 当該部門・組織の責任権限の範囲内で管理可能、かつ
実現する上で関係のあること

T(time-based) 達成の期限が明確になっていること

個別指導計画チェックリスト【短期目標編】



ルール	×不適切な例	○適切な例
<p>短期目標は具体的に！</p> <p>・指導目標が達成できたかどうかを客観的にわかるような「動詞」を使うこと。</p>	<p>「～がわかる」「～が理解できる」「～を感じる」「～を知る」「～を楽しむ」「～に親しむ」など</p>	<p>「～する」「（～できる）」「～という」「～を選ぶ」「～と書く」など</p>
	<p>・1桁の数どうしの引き算が理解できる。</p>	<p>・1桁の数どうしの引き算の式を見て、答えが書ける。</p> <p>・実物を見せながら文章題として話すと、質問に答えられる（例：「先生はみかんを5つ買ってきました。昼に2つ食べてしまいました。残りはいくつでしょう？」）。</p>
	<p>・数の概念がわかる。</p>	<p>・指差ししながらビー玉の数を数える（1～5個まで）。</p>
	<p>・10までの数を理解する。</p>	<p>・1～10の数字を読める。</p> <p>・1～10個の物事を数えられる。</p> <p>・10個以上のものから「～個とって」と言われて個数を取って渡せる。</p>
	<p>・「描く」「切る」「貼る」などの遊びを楽しむ。</p>	<p>・花や飛行機などの線画をクレヨンで塗ることができる。</p> <p>・色紙を簡単な枠線に沿って切り取ることができる。</p> <p>・切り取った紙を画用紙の□や○で囲んだところに糊で</p>

手順④：文章化

○ 短期目標の目標を具体的にする

- この目標が達成できたかが客観的にわかるような動詞を使う
→ 具体的にチェックできる本人の行動レベルを明確にする

○ 短期目標で取り組む場面を限定する

- あらゆる場面で評価が必要な目標は、全てのチェックができない

○ 短期目標の目標達成者は子ども

- 子どもができるようになることを記述
- ひとりで？ 具体的な支援を受けながら？ 手助けを明確に記述

○ 指導方法は具体的に書く

- 文章を読めば、別のスタッフが再現できるレベルで記述

支援計画を立てる手順 ⑤

【アセスメント（評価）のポイント】



- ・ 観察（自然観察・仮説検証観察）
- ・ 面接（本人や保護者、関係者からの聞き取り・情報収集）
- ・ 質問紙法（アンケート）
- ・ 検査法（学力検査 知能検査 性格検査 投影法
人間関係検査 作業検査法 各種心理検査）
- ・ ポートフォリオ（連絡帳 写真 創作作品 絵画 感想文など）

手順⑤：評価および記録

【ポートフォリオ：子どもの作品集】



支援計画を立てる手順 ⑥

【アセスメントによるモニタリングと支援計画の改善】



① 情報収集

- ・対象についての情報を集めること

② 分析

- ・得られた情報を基に、対象に起きていること、原因を考えること

③ 推測

- ・今ある情報から、対象に今起こりえることを予測すること

④ 解釈

- ・情報の意味を受けての側から理解すること、意味を解き明かすこと

⑤ 判断

- ・収集した情報を、分析、推測、解釈することで、自身の考えを定めること

⑥ 選択

- ・判断によって定められた考えを基に、複数のかかわりの選択肢の中から対象に合った方法を選ぶこと

手順⑥：モニタリングと計画改善

平成〇年度 放課後等デイサービス〇〇 障害児通所支援計画書

ふりがな	性別	生年月日	所 属				
氏 名	男	平成〇年〇月〇日	〇〇市立〇〇小学校				
住 所	〒		電 話				
	〇〇市〇〇町1000-1		携 帯				
診 断	#1 自閉スペクトラム症 #2 注意欠如・多動症 #3 境界域知能	療育 手帳	なし	身体 手帳	なし	精神 手帳	なし
家族の状況	父(単身赴任)・母・姉(同居)						
関係機関	計画相談事業所〇〇(〇〇氏)・放課後等デイサービス△△						
主 訴	心のケアが欲しいです。人間関係を学んでほしいです。課外活動の様々な所に連れて行ってほしいです。						
総合的 支援目標	精神的な安定感を得ることで、幅広い人間関係を作れるよう支援します。 課外活動では、様々な体験を通して自信をつけ、情緒豊かに楽しめるよう支援します。						
長期目標	一人でも安心して主体的な行動ができるようになりましょう。						
短期目標	大人との信頼関係を築きながら、安心して活動に参加できるようになりましょう。						
領 域	発達課題 (～が必要)	援助目標	支援の種類・内容・量等			評価 時期	
発達支援	ワーキングメモリの低さがあり、言葉の保持が難しいようです。	理解できるように話すことや、必要に応じては視覚情報を用いながら、“わかった”を実感につなげます。	①コミュニケーション・サーキット 4つの課題を通して、人と協力する事(一緒に行なう)、タイミングを合わせる事、譲り合う事、からだへの意識を向けコントロールする事などを学びます。			6ヶ月	
学習支援	不注意優勢があることで気が散ったりし、長く集中することが難しいようです。	宿題や事業所で用意した課題等、1対1で取り組みながら達成感を味わい、集中力を費やします。	②SST・体幹トレーニング ・場面設定を行い、思いの共有や伝え合う練習等を通して自己・他者理解につなげます。 ・自身体感や体のコントロールを図ります。			6ヶ月	
			③余暇活動支援(遊び方の工夫) 自分一人や、相手と楽しく過ごせるよう、様々				

人間関係	一人に固執する様子が見られます。徐々に人との楽しい関わりを持てるようになると良いです。	信頼関係を築いた大人から、徐々に子ども達に目を向けられるよう支援します。	な遊びを通して支援します。他に、施設外の課外活動等を行い、様々な体験を積みながら成功体験を増やし、自己肯定感を高めます。	6ヶ月
経験・体験	様々な経験を通して成功体験を積み、自信につなげていくと良いです。	公園、施設、食事、見学など、様々な体験を通して達成感を得られるよう支援します。	④工作・調理活動 その季節に応じて適した工作物や調理をすることで、1年の意識や手指の巧緻性、集中力、段取りなどを養い、達成感を味わいます。 ⑤個別面談(心理療法各種) ストレス緩和やリラクゼーション方法、自己・他者理解等に努めます。	6ヶ月
移動支援	送迎を行う	安心して来所、帰宅が出来るよう送迎を行う	◆事業所送迎車で送迎 本児の安全と健康管理に努めます。	6ヶ月
家族支援	本児の状態把握・理解。	本児の長所・短所を含め困り感を共有します。	学校や保護者等と、本児の適切な理解と問題意識の一致のために情報共有を行います。(本児の了解が得られたものを優先します)	1年

作成日:平成〇年〇月〇日

作成者:児童発達管理責任者: 〇〇 〇〇 印

児童保護者: _____ 印

手順⑥：モニタリングと計画改善

- ① 目的：本人の望ましい成長を意図的・計画的に支援するため
- ② 内容
 - ・ 本人や家族のニーズを踏まえているか？
 - ・ 実現可能な目標か？
 - ・ 本人が達成すべき発達課題を正しくとらえているか？
- ③ 方法
 - ・ 事業所で支援可能な方法か？
(適切な次元・範囲か？ 具体性があるか？)
 - ・ 本人が達成すべき発達課題への取り組みの時期が適切か？
- ④ 評価
 - ・ できたか、できなかったか、の判定が可能か？
(行動目標としての記述が必要)

支援計画を立てる

『支援計画では何を目標とするか？』



支援のタイミング・優先順位の設定が肝

望ましい行動を身に付ける5段階戦略

- ① 不適切行動を『**軽減**』する・なくす 「**分化強化**」 「**消去**」
 - ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）
- ② 望ましい行動を新たに『**獲得**』させる 「**シェイピング**」 「**SST**」
 - ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する
- ③ 獲得した行動を『**維持**』させる 「**強化スケジュール**」
 - ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する
- ④ 獲得した行動を『**般化**』させる 「**習慣化**」
 - ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする
- ⑤ 獲得した行動の『**自立**』度を高める 「**フェイディング**」
 - ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす

② 行動の獲得 「シェイピング」・「SST」

【シェイピング】

目標となる行動をスモールステップに分けて、簡単なものから教育・学習していく方法

目標行動に**より似ている行動**だけを次々と分化強化していく手続き



【連続強化スケジュール】

行動するたびに強化する手続き

【目標行動】

レパートリーでない行動の1つで
目標行動と関係の深い次元上で
似ている行動

【行動の細分化】

どの行動を身につけるのか？
できている行動・まだできていない行動の見極めが重要

③ 行動の維持 「強化スケジュール」

【連続強化スケジュール】

行動するたびに
好子が出現したり
嫌子が消失すること

行動の
獲得時

【部分強化スケジュール】

何回かに1回だけ
行動に随伴して
好子が出現したり
嫌子が消失すること

定比率

決められた回数の行動をした直後に好子が出現する

変比率

何回か行動すると（回数是一定ではない）好子が出現する

定時隔

前回の好子の出現から一定時間経過後の最初の行動の直後に好子が出現する

変時隔

前回の好子の出現からある時間（時間は一定ではない）経過後の最初の行動の直後に好子が出現する

④ 行動の汎化（般化）

「習慣化」

習慣とは

十分に学習した行動や自動化された行動系列のうち、比較的特定の状況で生じ、時間がたつことで**運動性の反射**となり、動機付けや認知の影響を受けなくなり、**意識的な意図をほとんど、あるいはまったく伴わずに**実行されるもの。

【習慣化の特徴】

- ・ その行動をするのが当たり前を感じる。
その行動をしない方が気持ち悪いと、違和感を覚えることもある。
- ・ 意志の力が要ない。無意識のうちに行っていることもある。
- ・ がんばらずにずっと継続できる。
むしろやめようと思っても、やめられない。

⑤ 行動の自立 「フェイディング」

プロンプトフェイディングの例

身体プロンプトを使用して行動を教える

モデリングを使用して行動を教える

声掛けを使用して行動を教える

プロンプトなしで行動ができる

手助けレベルを減らす

ことばかけのフェイディング

・「部屋に入ったらくつをくつばこに入れるよ」



・「部屋に入ったら最初にすることはなにかな？」

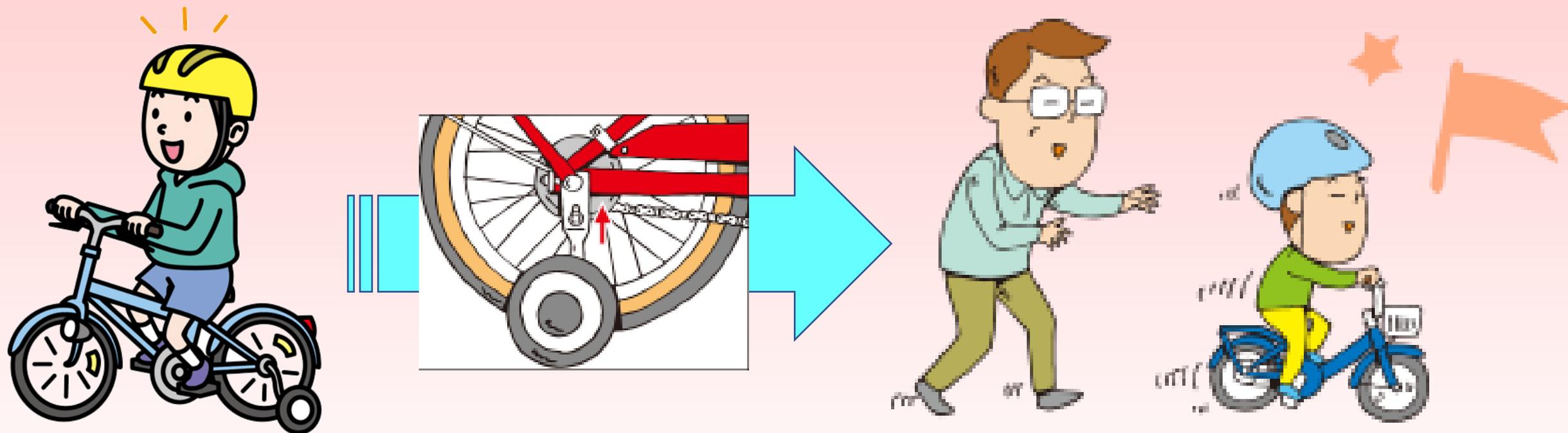


・「約束を思い出してごらん」



・（声かけせずに待つ）

私たちがおこなう支援とは…



支援 = 補助輪
つけ



補助輪
はずし



ひとりでできる

支援の量